

## 2024年洞神社屋根裏より板書

No 0 2 9

2024年5月 文責 中山 敏夫

はじめに

2024年5月洞神社屋根裏に小動物による被害が有り、屋根裏を清掃、修復頂いた折に棟札二枚が発見されたので記録する。洞神社からは過去の修復時にも棟札が出ていて整理中。

### 1, 宝暦八年札

長さ 43×幅 9.4×厚さ

1.7cm。

洞宝暦 8 表 DSC1303



洞宝暦 8DSC\_1295

<翻刻>

表側

宝暦八戊寅年

上 正月吉日

裏側

皆屋 宝暦八戊寅天 江州滋賀郡国分村

造根 保羅権現御社 神主藤堂太左衛門

重之卯三郎

上札 正月二十八日 屋根屋膳所檜皮屋重右衛門

〇〇〇〇〇

<解説>

洞神社で宝暦八年（1758）に屋根の葺き替えを行った時の棟札。

洞を保羅と表記しているのは当て字であろう。当時は、社名を権現社としていた。

造替時の神主は藤堂太左衛門で施工した膳所の3人の職人名が書かれているが一部判読不能

### 2, 明治21年札

長さ 36.7×幅 12.5×厚さ 1.3cm。裏側、記事無し



洞明治 21DSC\_1316.jpg

<翻刻>

明治 21 年 2 月吉日  
洞大権現屋根桧皮葺破損  
板屋根葺替改

連合○○○○○  
村○……………  
祠堂○……………  
祠掌○……………  
大津屋根○……………

<解説>

明治 21 年（1888）の屋根修復時の棟札。人名部分が消えて判読不可能であるが社名が「洞大権現」とされている。洞神社の板書・棟札類には権現、大明神との表記が多い。いずれの敬称も神仏習合の考えでは仏が神様として現れた姿を表すが、明治元年の「神仏判然（分離）令」が出て許されなくなった。しかし、当社では 20 年経てもなお権現を名乗っていたのである。なお、洞神社が近津尾神社に合祀されたのは明治 42 年のことである。